

平成20年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
20	医薬品安全性学・薬剤疫学（中毒部門）	No. 1 3枚		

問1 重篤な副作用に関する次の記述（1～5）の空欄〔a～l〕に該当する語句を、解答欄に記入しなさい。（12点）

- （1） 薬剤性味覚障害の半数以上で〔 a 〕 欠乏が見られ、ペニシラミンなど〔 b 〕を形成する薬剤が原因となりやすい。原因薬を中止すれば障害は回復するが、回復しない場合は〔 a 〕 製剤の内服が行われる。
- （2） 劇症肝炎は、症状発現後8週間以内に肝性昏睡Ⅱ度以上の〔 c 〕をきたすなど、重篤な肝機能障害である。〔 d 〕や〔 e 〕などの薬剤は、添付文書上警告で原因薬として注意が促されている。
- （3） 〔 f 〕を服用する患者では、フルオロウラシルとの併用によりプロトンポンプ時間の延長、血尿、皮下出血などの出血傾向の症状を呈する恐れがある。これはフルオロウラシルによりCYP〔 g 〕が阻害され、抗凝血薬の作用が増強するためである。
- （4） 〔 h 〕患者が喘息を合併している場合、〔 h 〕治療薬の〔 i 〕や、抗コリン作用を持つ喘息治療薬の〔 j 〕は、合併症の症状を増悪するため、禁忌となる。
- （5） 心室性不整脈は、心室頻拍の一種で心電図上〔 k 〕の延長を伴い、特異的な心電図波形を示す危険な不整脈のひとつである。添付文書上、別名〔 l 〕ともいう。原因薬として高脂血症治療薬のプロブコールや三環系・四環系抗うつ薬によっても引き起こされることがある。

解答欄

a	b	c	d
e	f	g	h
i	j	k	l

採点		〔 〕
----	--	-----

平成20年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
20	医薬品安全性学・薬剤疫学（中毒部門）	No. 2 3枚		

問2 急性薬毒物中毒とその治療や診断に関する次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×を（ ）内に記入しなさい。（10点）

- () アセチルシステインは、アセトアミノフェン大量摂取により枯渇するグルクロン酸を補給する目的で使用される。
- () メスナは、イホスファミドの尿中代謝物アクロレインに付加して、非障害性の縮合体を形成して、出血性膀胱炎の発現を抑制する。
- () メトトレキサート大量投与時に投与されるホリナートカルシウムは、細胞の葉酸プールに取り込まれ、活性型葉酸となり正常細胞を救援する。
- () 酢酸ヒドロキシコバラミンは、シアン化合物中毒に対し、ミトコンドリア内の酵素によりシアンと反応し、弱毒性で尿中排泄しやすいチオシアン酸塩を生成する。
- () 除草剤のパラコートは、生体内に取り込まれると、酸素と反応し、過酸化水素や水酸ラジカルを生成し、細胞膜の脂質を酸化変性することにより障害を与えるため、酸素吸入は禁忌である。
- () ヨウ化プラリドキシムは、アセチルコリンエステラーゼと結合したカーバメート系殺虫剤の遊離を促進し、アセチルコリンエステラーゼを賦活化し、アセチルコリンの分解能を回復させる。
- () 活性炭は、消化管内に残存している未吸収薬物を吸着することにより、薬物の消化管吸収を阻止する目的で薬物中毒患者の初期治療に用いられる。
- () 血液浄化法は、既に吸収された薬毒物や代謝産物の体外への排泄を促進するために行われる除染方法で、透析、濾過、吸着の3つに大別される。
- () 防虫剤の樟脳（カンフル）を小児が誤食した場合は、けいれんを誘発する恐れがあるため吐かせてはいけない。
- () 口腔内あるいは胃の中にある内容物を、誤って気管や肺に吸引することを誤飲といい、乳幼児の窒息の原因となる。

採点		[]
----	--	-----

平成20年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
20	医薬品安全性学・薬剤疫学（中毒部門）	No. 3 3枚		

問3 次の各設問（a～b）について、それぞれ7行以内に記述しなさい。

a 薬物中毒の診断や治療にはノモグラムが用いられることがある。ノモグラムとは何かを説明し、実際の中毒治療にノモグラムが用いられる中毒物質を3つあげなさい。（4点）

b 薬物依存性を示す薬物を大きく6つに分類し、その分類名と、それぞれの分類に属する代表的な薬物名をあげなさい。（4点）

採点	
----	--

[]